

広報

第79号



日大山形

令和5年9月30日発行

Dreams come true.

仲間とともに



野球部 県大会優勝



桜華祭 栗山英樹氏 来校

「熱く、泥くさく、粘り強く」2年ぶり甲子園へ

第105回 全国高等学校野球選手権記念大会 出場!!

「たのびの行い、僕の夢へ」

第一〇五回全国高等学校野球選手権記念大会のキャッチフレーズである。入場制限、応援制限が解かれた「いつもの夏」が今大会から戻ってきた。そして今年の夏も高校球児にとって子どものころからの「夢」をかけた大会であった。

二年振り一九回目の県制覇

七月二三日。この日、二年振り一九回目の夏の甲子園大会出場の切符を手にした。大声援を背に受け躍動した今年のチームは本場に粘り強く逞しいチームであった。三回戦の酒田南との戦いはがけつぷちまで追い詰められた。一点を争う緊迫した試合の中、九回表にセンター清野(二年)のバックホームでピンチを凌ぎ、その裏に浅野(二年)のサヨナラ打で準々決勝に進出した。準々決勝も先制点を許すが、逆転で勝利。準決勝も勝ち切った。迎えた決勝戦では相手投手の好投もあり、好機を生かせず二点を先制される展開となった。〇―二、一―一、一―三。なかなか点差がつかまらない状況であったが選手たちの勝利を信じ抜いていた。迎えた七回表の攻撃。二アウト一塁から一挙五点を取って勝ち越した。小野(三年)鈴木(三年)高橋(二年)菅井(三年)川越(三年)による五連打。この怒涛の逆転劇はまさに日大山形野球部のモットーである

「熱く、泥くさく、粘り強く」を体現したものであった。その後のピンチも気迫あふれるプレーでしのぎ、九回裏三つ目のアウトを取った瞬間、グラウンドとスタンドは一体となって喜びを爆発させた。フェンスにぶつかりながらボールをつかんだプレーやピンチに渾身の直球を投げ込む勇気も日大山形らしさを象徴するプレーであった。

三年生の想い

県大会決勝後、応援スタンドにいた三年生の控え部員たちの涙がとても印象に残っている。共に練習に励み、メンバーのサポートに回りメンバーとともに戦ってきたからこそ涙したのだと思う。今年の代は下級生がメンバーの半数以上を占めていた。悔しい思いをした。三年生もたくさんいた。それでも最後までチャレンジし続ける姿勢がメンバー二〇名の背中を押してくれた。今思うと決勝戦のあの逆転劇はそんな三年生の想

いのこもった連打だったのかもしれない。

一回戦 おかやま山陽高校戦

四九代表校による一斉行進、山崎育三郎さんによる『栄冠は君に輝く』、WBC日本代表監督の栗山英樹氏による始球式。制限のない満員の甲子園球場で華やかに第一〇五回全国高等学校野球選手権記念大会が開幕した。本校は大会三日目第三試合、岡山県代表・おかやま山陽高校戦に挑むこととなった。

最後に

これまでいただきました暖かいご支援とご声援に心より感謝いたします。おかげさまで二年ぶり一九回目の甲子園に出場することができました。皆さんと共に校歌を歌うことは叶いませんでしたが、日大山形らしい粘り強い戦いをすることができましたと思います。これからも精一杯努力を積み重ね、甲子園での勝利、そして日本一へ向けて歩みを止めず、挑戦してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。日大山形野球部 一同

最後に

というのを達成できたことは、私の中の様々なものを成長させてくれました。特に、あの観衆の前でプレーできたことよって、人間性を大きく成長させることができました。後打でチャンスを作った。後打は打ち取られゲームセットを迎えたが、このキャプテン、副キャプテンの連打は、日大山形野球部の誇り、そして三年間ともに戦ってきたスタンドにいる三年生たちの誇りを、「夢舞台」に刻んだ素晴らしいヒットであった。

三年 菅井 颯(鶴岡五中)

甲子園大会応援ありがとうございました。山形県代表として出場して、不甲斐ない結果となってしまいました。自分の今後の野球人生においていい経験になりました。この悔しさを大いにして、来年も甲子園で活躍できるように頑張ります。本当に応援ありがとうございました。

二年 高橋直叶(飯野川中)

高校球児なら誰もが目指す場所「甲子園」で野球ができて幸せな時間でした。初戦敗退という結果になってしまいましたが、悔しい思いをしながら、この敗戦を忘れることなく、もう一度甲子園で野球ができるように頑張ります。これからも応援お願いします。

三年 小野彰太郎(西山中)

野球を始めた頃からの夢であった甲子園に立ち試合ができたのは一生の思い出

戦いの記録

山形県大会

2回戦	10-0	山形学院
3回戦	2-1	酒田南
準々決勝	14-7	山形城北
準決勝	7-0	羽黒
決勝	6-4	山形中央

甲子園大会

1回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
日大山形	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
おかやま山陽	0	0	0	3	0	5	0	1	X	9



です。甲子園で最高のプレーをすることができたのは皆様の応援のおかげです。今まで野球を支えてくれた家族と三年間一緒にプレーしてくれた仲間感謝し、野球で培ってきた経験をこれからの人生に活かしていきたいと思っています。

二年 笹 大夏(新庄中)

私は小さい頃からの夢の舞台に立つ事ができました。そして甲子園に行く難しさと甲子園で勝つ難しさを知りました。これから新チームがはじまり来年またあの舞台に立てよう、そして歴史を塗り替えられるようにこの経験を活かし頑張りたいと思います。

三年 鈴木一慎(陵東中)

私は、小さい頃からの夢であった甲子園という大舞台でプレーできたことは一生の思い出です。一回戦で負けてしまいましたが今まで支えてくださった方々に恩返しできたと感じます。三年間共に頑張ってきた仲間と過ごした時間は一生の宝物です。

二年 清野隆之輔(東根一中)
甲子園の舞台でプレーをする貴重な体験をしました。勝利を上げられず悔しい思いをしました。来年もう一度あの舞台で山形に勝利のおみやげをもってきたいです。新しく始まったチームでこれまで以上の練習を行い、活躍できるように精一杯頑張っていきます。

二年 遠藤海星(震井北中)
私は、小さい頃からの夢だった甲子園に出場することができました。二年生から四番打者として、試合に

二年 渡辺拓海(陵東中)
私は憧れであった甲子園の舞台に初めて立ちました。この舞台に立てたのも地域の方々や様々な方々のおかげだと思います。サポートしてくださった方に感謝し、また来年甲子園に戻ってこられるように、日々努力していきます。

二年 那須渉太(酒田三中)
私は、甲子園という舞台に立つて実感した事があります。それは、多くの人に支えられてきたからこそここに立てているんだという事です。甲子園出場を決めた時や、大会終了後、多くの方々からメッセージが届きました。これから野球をしていく中で、感謝の気持ちを忘れる事なく、自分のプレーで恩返しができる選手になろうと思います。

二年 土屋 巧(山形三中)
始めに、応援のため遠い甲子園まで足を運んでいた

二年 井上陽太(鶴岡一中)
幼い頃からの夢であった甲子園という舞台は、今まで一番野球のやりやすい球場でした。また今後の人生においても、もう二度とできない貴重な経験をさせてもらったので、この経験を今後の人生に生かして大



三年 石山幸守(天童三中)
私の夢だった甲子園に立てたことは一生の誇りです。記録員としてベンチに入りましたが、やれることを全てやりきり全力を尽くせたと思います。メンバーに入らなかった三年生も一体となり、とても充実した時間を過ごした甲子園でした。

二年 浅野隼人(大和中)
小さい頃から目指していた「甲子園」という舞台は自分のプレーを最大限に出せる球場でした。また最高の先輩方と甲子園でプレーできて幸せでした。自分達はこの悔しさをバネに日大山形のスローガンである全国制覇を目指してもう一度この舞台に戻ってこられるように頑張りたいと思います。本当に熱い応援ありがとうございました。



二年 沼澤隼人(新庄中)
小さい頃からの夢だった「甲子園」でプレーできたことがとても楽しかったです。しかし目標の一つでもある甲子園で校歌を歌うことができなかったのが来年も甲子園に出場し、甲子園で校歌を歌えるようにこれからも努力していきたいと思っています。県大会、甲子園での応援ありがとうございました。

三年 川越葵生(郡山六中)
目標である甲子園の舞台に立てたこと、この最高のメンバーと甲子園で野球ができたことが一生の思い出となりました。勝つことはできませんでしたが、勝ち負け以上に大切なことを学ぶことができました。たくさんのご声援ありがとうございました。引き続き野球部の応援よろしくお願いたします。

二年 佐藤巧望(金井中)
「甲子園に行きたい」小さい頃からの夢でした。夢であったあの甲子園に立けたことを誇りに思うと同時に、人として大きく成長できました。県大会・甲子園ともに出場することができなかった悔しさをバネにもう一度甲子園の舞台に行き、活躍できるように頑張ります。

出場し、たくさんの貴重な経験をさせてもらいました。甲子園では、ヒットを打つことができました。この経験を活かして来年も甲子園に出場できるように、頑張りたいと思います。

三年 杉浦暖人(磐田中央)
甲子園の舞台に立ち、試合をすることができたのは一生の経験となりました。この舞台に立てたのは三年間支えてくださった、たくさんの方のおかげです。三年生の仲間と甲子園で終われたことを糧とし、これからも泥くさく頑張っていきます。

二年 佐藤大清(山形九中)
憧れの舞台であった甲子園でプレーすることができてとてもいい経験をすることができました。しかし、結果はとも悔いが残る敗戦になりました。来年、同じ舞台に立ち活躍するために、辛い事に耐えて心身ともに成長し、仲間と甲子園で勝つ喜びを味わえるように頑張ります。

三年 石山幸守(天童三中)
私の夢だった甲子園に立てたことは一生の誇りです。記録員としてベンチに入りましたが、やれることを全てやりきり全力を尽くせたと思います。メンバーに入らなかった三年生も一体となり、とても充実した時間を過ごした甲子園でした。

第六五回
桜華祭

八月二十六日・二十七日の二日間にわたって、今年度の桜華祭が行われた。

今年度は熱中症対策、衛生面を中心とした新型コロナウィルス対策を十分に講じながら準備を進め、二日目には四年ぶりとなる一般公開も実現することができた。多くの制限の中で中学校・高校生活を通じてきた生徒たちにとって、ようやく思い描いていた「学園祭」を行えるとあって、生き生きと準備に取り組む姿が印象的であった。

初日は在校生のみで体育館行事が行われた。午前中は放送部の作品上映からはじまり、演劇部の公演、ダンスドリル部のパフォーマンス、吹奏楽部の演奏が次々と披露された。普段はあまり見ることのなかったクラスメイトや先輩・後輩の日頃の努力の集大成に生徒たちは釘付けとなり、体育館は大いなる熱気と感動

の雰囲気にも包まれた。また、午後には特別文化講演会が行われた。

二日目は前日に引き続きダンスドリル部のパフォーマンスが披露されたのち、体育館ではフリーステージと生徒会企画、校舎・校地内では各クラス・文化部の企画や出店などがそれぞれ催された。

フリーステージでは音楽部生徒によるライブや有志によるダンス披露、生徒会企画では男装・女装コンテストとアームレスリング大会が行われ、大きな盛り上がりを見せた。フリーステージにおいては多種多様なパフォーマンスを通して生徒たちのさまざまな自己表現を見ることができ、新たな一面を知ることができたように思う。生徒会企画の男装・女装コンテストやアームレスリング大会はコロナ禍を挟んで久しぶりの開催となっ

たが、過去に見ないほど多くの生徒が参加した。それに加え、観覧する生徒たちも掛け声や手拍子をはじめ全体で企画を盛り上げてくれたことで、会場は熱気に包まれた。

各クラスにおける、モザイクアートの展示や射的・迷路などゲーム性のある企画のほか、生物部・写真部・美術部・書道部・漫画部・英会話部の展示、保護者会の出店も大盛況であった。また、図書委員会の古本市やホームルーム運営委員会のお化け屋敷にも多くの来場者が訪れてくださった。そんな中でも一般公開にあたり最も賑わいを見せたのは三年生の出店やカフェではないだろうか。焼きそばやフランクフルトはもちろん、厳しい暑さもあって冷たい飲み物やかき氷を提供するクラスには長蛇の列ができていた。忙しく動き回る生徒たちの様子からその充実度が窺えた。

夏休み明けから本格的に準備を開始し、時間のない中で生徒たちは一生懸命に桜華祭を作り上げ

てくれた。来場して下さった皆さんに楽しんでいただけたことに安堵しているが、生徒たちも存分に桜華祭を堪能したようである。私のクラスにも保護者の方々に加え多くの在校生が訪れてくれた。桜華祭の最中、そして終了後に、生徒たちの達成感に満ち溢れた笑顔を見ることができて、桜華祭が成功を取めたことを確信した。この場を借りて心から「お疲れさま!!」と伝えたい。

一般公開があるとは言え、桜華祭の主役はやはり生徒たちである。来年度からも生徒たちにとって「唯一無二」の思い出となる桜華祭が開催されることを切に願う。



桜華祭 特別文化講演

2023WBC 侍ジャパン 栗山英樹監督 ご来校!



八月二十六日(土)、桜華祭の初日、2023WBCで優勝した侍ジャパンの監督、栗山英樹氏を招いて特別講演会が行われました。

2023WBC(WORLD BASEBALL CLASSIC)には、本校OBの中野拓夢選手(阪神タイガース)も侍ジャパンとして召集され、WBC優勝メンバーの一員となりました。また、本校野球部も出場した第一〇五回全国高等学校野球記念大会の開幕試合の始球式を栗山氏が務められたご縁等もあり、今回の講演が実現しました。

サプライズゲストということで、生徒や教員には当日まで講演者も知らされていなかったため、入場の際には驚きのあまりの大歓声、盛り上がりも最高潮になり、講演も最後まで全員が真剣な眼差しで聞き入っていました。

講演で栗山氏は、侍ジャパンにおける「中野選手が存在価値」や、侍ジャパンが一つになり世界一に辿り着けた要因、そして「できるかできないか」ではなく「やるかやらないか」がとても重

要であり、自分の可能性を大切にしたいことなど、栗山氏の野球への情熱とWBC戦士一人ひとりへの誠実な思いをお聞きすることができました。

講演後の質疑応答では、野球部今田歩希前主将が「人生において困難や壁にぶち当たったときに、それを乗り越えるためにはどんなことが一番大切ですか」と質問しました。栗山氏は「艱難(かんなん) 辛苦という言葉があるが、壁に当たっている自分が感じるときは、自分が成長するチャンス。ラッキーだと自分に言い聞かせて前に進む努力をする。これが大切だ」と述べられました。

多くの熱いメッセージをいただくことができ、夢のようなあつという間の時間となり、有意義な文化講演会となりました。



一学期期末考査を終え開放感溢れる中、各学年の体育祭が県体育館、本校体育館、総合スポーツセンターで行われた。普段クラスで見える表情にも増して活気に溢れる

姿が見られた。さぞ、試験期間で蓄えたエネルギーを活用できたことであろう。新型コロナウイルスの規制も緩和され、応援できる環境を大いに楽しんでいった。

一学年 (山形県体育館)

- 男子バスケットボール 一位 6組 二位 5組 三位 9組・10組
- 女子バスケットボール 一位 4組 二位 10組 三位 5組・7組
- 男子バレーボール 一位 2組 二位 1組 三位 6組・10組
- 女子バレーボール 一位 1組 二位 3組 三位 4組・9組
- 卓球 一位 8組 二位 5組 三位 9組・10組
- クラス対抗リレー 一位 3組 二位 2組 三位 9組



二学年 (本校体育館)

- 男子バレーボール 一位 5組
- 女子バレーボール 一位 8組
- アームレスリング 一位 6組
- ダーツ 一位 5組
- バドミントン 一位 6組
- ババ抜き 一位 9組
- 男子バスケットボール 一位 3組
- 女子バスケットボール 一位 1組
- 気配切り 一位 5組
- 卓球 一位 8組
- オセロ 一位 8組
- 鬼ごっこ 一位 7組
- クラス対抗リレー 一位 2組



三学年 (山形市総合スポーツセンター)

- 男子バスケットボール 一位 8組
- 女子バスケットボール 一位 3組
- 男子卓球 一位 9組
- 女子卓球 一位 8組
- 二人三脚リレー 一位 3組
- 男子バレーボール 一位 7組
- 女子バレーボール 一位 5・7組
- 男子バドミントン 一位 6組
- 女子バドミントン 一位 7組
- ドッジボール 一位 5組
- クラス対抗リレー 一位 1・2組



日本大学学部 合同説明会

六月二二日に法学部、文学部、経済学部、商学部、国際関係学部、危機管理学部、理工学部、生産工学部、生物資源科学部、附属看護専門学校、先生方を講師としてお招きし、日本大学学部合同説明会が行われた。

進路希望に合わせて各ブースに分かれ、学部の所在地や規模といった基礎的な情報をはじめ、履



修した単位で得られる資格や卒業後の就職先など、それぞれ学科の特徴等、興味をひく話を聞き、知識を得た。また、就職希望の説明会では自衛隊の

方々から話を伺った。

生徒たちは集中

して講師の方々の説明を聞き取り、質問コーナーでは自主的に挙手・発言する様子が見られた。

生徒自身、それぞれの進路希望先に関する説明を聞いたことは、勉強に対するモチベーション向上につながるに違いない。



国公立大学進学説明会

六月一〇日・一三日に、国公立大学進学説明会が開催された。それぞれ河合塾から講師の先生を招いて、国公立大学進学を目指している生徒および保護者の方々を対象として、約一時間半にわたり説明を受けた。一年生は国公立大学の受験と進路希望達成のための心構えと取り組みに関する説明を受け、高校生活をどのように過ごすべきか、また各学年で取り組むべき学習内容を聞くことがで

きた。二・三年生は国公立大学入試の今後の動向と、受験生としての心構えや進路実現に向けた取り組みについて具体的に説明を受けたことで、受験生としての覚悟を強めることができたようである。三年生はこれから本格的に始まる受験に向けてどのように過ごすべきかなどのアドバイスももらい、気持ちを新たにしたいようである。最後まで諦めずに進路目標を達成してもらいたい。



部活動体験会

八月五日・一日の二回にわたり、中学生を対象とする部活動体験会が行われました。野球部は甲子園大会出場のために中止となってしまいましたが、運動部・文化部の体験会には二六一名の参加をいただくことができました。大変暑い中、ご

参加いただいた皆様へ厚く御礼申し上げます。

また、九月三〇日から五回実施される「学校説明会」の中で、部活動見学の機会を予定しています。詳細については、本校ホームページをご確認ください。



日本大学付属高等学校
特待生

- 高橋 遼平(山形二中)
- 大宮 遥杜(山形二中)
- 木村 理緒(新庄中)

日本大学山形高等学校
奨学生

- 高橋 寛人(河北中)
- 鈴木 娃李(山大附中)
- 阿部 彦(山形六中)
- 菊地 泰希(山形六中)
- 渡辺 敬人(山形十中)
- 赤津 結惟(天童二中)
- 木内 文月(山大附中)
- 岩瀬 暁人(山大附中)
- 大類 凜(山形三中)
- 山口 奈々(陵南中)
- 秋葉 悠樹(山形九中)
- 小松奈々実(山大附中)
- 山口 優吾(山形三中)

日本大学山形高等学校
コカ・コーラ育英奨学生

- 大橋 りん(山辺中)
- 遠藤 悠翔(神町中)
- 亀井 壮太(山形三中)
- 関本 和奏(山形三中)
- 伊藤 太一(金井中)
- 遠田 樹生(山形五中)

令和5年度
特待生
奨学生
決定

日本大学海外研修

未来へ受け継ぐこと

理科(物理)

清水 崇宏

七月二五日から八月一五日まで、海外研修としてドイツ・スイス・イタリアを訪れる機会をいただいた。高校生に物理学を教える中でどのように魅力を感じてもらおうかのヒントを得るため、今回の研修では物理学という学問が辿ってきた歴史と現在行われている最新の研究の両面について学ぶことにした。

様々な場所を見て回ったが、特に印象に残っているのはスイス滞在中に訪れた施設である。一つ目は、ベルンのアインシュタインに関する施設(博物館および彼が住んでいたアパート)だ。彼は二十代半ばからベルンに移り住み、特許庁で働く傍ら研究に没頭した。そして『奇跡の年』と呼ばれる一九〇五年には「光電効果」ブラウン運動『特殊相対性理論』という彼の業績の三本柱となる論文を発表している。博物館ではそんな彼の生い立ちや数多くの研

究業績、戦争との関わりや晩年の様子を知ることができた。なかでも「重力波」という、相対性理論に關係する現象についての説明を見て、最近その直接検出に成功しノーベル賞につながっていることもあって、アインシュタインが後世に託した最後の宿題が解き明かされたことに改めて感動を覚えた。また、「アインシュタインハウス」と呼ばれている彼が住んでいたアパートは普通の街なかであり、一見すると偉人が住んでいたとは思えないほど静かに佇んでいた。しかし、決して広くはないリビングで、通りを行き交う人々の様子を見ながら研究に打ち込めたからこそ、『奇跡の年』が生まれたのではないかと感じた。

二つ目は、ジュネーヴの欧州原子核研究機構(CERN)だ。特にATLASという実験装置を操作・解析する様子を見学できたのは非常に貴重な経験となった。また、CERNは科学・情報教育にも力を入れており子ども向けの見学施設があったり、サイエンスショーが行われたりし

ている。今回、幸運にも情報技術をテーマとしたショーに参加することができた。参加していた子ども達は非常にアクティブで、ショーに積極的に関わろうとする姿勢が印象的だった。

今回の研修を通じて、物理に魅力を感じてもらうためには数多の研究者の業績がいかに受け継がれ今日の研究や技術に繋がっているのかを伝えることが不可欠であると改めて感じた。研修中には物理以外の理工系分野の施設も多く見学した。物理に限った話ではなく、これまで科学・技術が辿ってきた過去・現在・未来を一本の筋を通して生徒に話すことができれば、必ずや彼らを魅了することができるのではないかと感じる。教師の使命であり醍醐味は、このように生徒に直接「受け継いでいくこと」ではないかと思う。



CERNにて

第12回ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ 付属高校生のサマー・プログラム

イギリスへの付属生の研修はコロナ禍で中止になっていたが、四年ぶりに再開された。本校から二名が参加し、語学研修のほかに、ロンドン、オックスフォード、ケンブリッジの街を見学し、異文化を体感した有意義な研修となった。

英語と向き合うこと

三年四組 鈴木 佳奈 (中山中)

(中山中)

私は英語が得意でこのプログラムに参加したが、現地で飛び交う英語に頭がパンクしそうになりました。そこからじわじわと不安が広がっていきましたが、話しやすい授業の先生やPA達、そして英語がたない私の言葉を一生懸命理解してくれようとする人達のおかげで、イギリスへ行ってよかったです。毎日行われる小さなゲームはとってもおもしろく、英語の伝言ゲームは頭を使いましたが、改めて英語を理解したと感じました。

また、日本の授業と違い『自分の意思の主張』が一番大切にされています。どの授業でも生徒の発言を尊重してくれて新鮮な授業で飽きませんでした。放課後になると友達と一緒にショッピングを楽しんだり、お土産を選んで、お揃いのキーホルダーも買いました。皆積極的に話かけてくれて会話が弾み、自分の視野が広がり、将来の選択肢も増えました。



グループワークで優勝! 右端が鈴木さん

り立ち、その後の二週間は、とても短くも濃いついでした。



和田さん(左)、学生PAと一緒に

授業などはオーリンゲリッッシュで行われ、ケンブリッジの街を巡ったりケンブリッジの伝統に関する話を聞いたり発音を練習するなどしました。またそれ以外の時間はPAと呼ばれる大学の学生アシスタントとアクティビティをしたり、自由時間も多かったです。なので他の付属高校の生徒と街を探検したりしました。初めは現地の先生やPAの英語を聞き取るのに苦戦していましたが、一週間くらいが過ぎると少しずつ会話ができるようになっていきました。語学研修なのでもちろん生きた英語に触れることができても良い体験ができましたが、この研修の一番の良さはケンブリッジという歴史があり日本にはない大都市に滞在できることだと思います。歴史ある街並みを歩くと、そこら中にノーベル賞をとった人の研究室があり、とてもおもしろかったです。

新しい景色

二年九組 和田 広正 (山形一中)

(山形一中)

行きの飛行機の窓からグリーンランドの氷河を見たときに、自分の中で今までに感じたことのないような風が吹き込んできました。何か自分の知らない物や事を知ることができ胸の高鳴りを覚えてつつイギリスの地に降

このすばらしい経験を活かし、海外で働くという夢を叶えられるように頑張ります。

学校説明会

- 第1回 令和5年 9月30日(土)
- 第2回 令和5年 10月21日(土)
- 第3回 令和5年 11月12日(日)
- 第4回 令和5年 11月26日(日)
- 第5回 令和5年 12月2日(土)

開場 8:50
 受付 8:50~9:20
 オープニングセレモニー 9:20~9:30
 説明会 9:30~10:50
 以下は希望制になります。
 ・特進コース説明会 11:00~11:40
 ・部活動見学 11:00~12:00
 ・校舎見学 ①11:00~11:20
 ②11:40~12:00
 ・個別相談 11:00~



※事前の申込みが必要です(定員制)。
 本校ホームページの「入試・イベント」内でアカウントを作成し、お申込みください。
 [受付開始:令和5年9月1日(金)正午, 受付締切:各回の3日前の正午]
 上の二次元バーコードからもお申込みができます。
 ※上履きをご持参ください。
 ※状況により予定を変更する場合がありますので、参加前に本校ホームページでご確認ください。



懇親会にて記念撮影



令和5年7月1日、パレスグランドールにおいて開催された。総会は役員会を中心に継続して開催してきたものの、新型コロナウイルス蔓延により懇親会は実に4年ぶりの開催となった。

4年前に発足した実行委員会が満を持して立ち上がり、「桜華繚乱」のスローガンのもと約300名の同窓生が集い、和やかな雰囲気の中で懐かしく楽しいひと時となった。

フォト・ア・ラ・カイト



教育実習



選挙講座



芸術鑑賞会



地区総体壮行式



桜華祭



体育祭



野球部 優勝報告会



野球部 応援(山形県大会)

日本大学山形高等学校広報部
 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘四一五五
 電話 023-641-6631(代)
 FAX 023-641-6634
 URL https://www.yngchshinon-u.ac.jp
 写真提供 (株)大風印刷
 印刷 フォトリソグラフィ



キミヲオモフ 横山 彩乃(山形三中)



弾かれた音 樋口 悠希(山辺中)

第47回全国高等学校
 総合文化祭
 出品作品「写真部」

編集後記

九月に入ったとはい
 え、未だ猛暑・酷暑で
 ある。気候のせいとか、
 それとも私自身が室内
 にいることが多かった
 せいかな、蟬の声があま
 り聞かれなかったよう
 に思う。急に局地的な
 豪雨に見舞われること
 もあり、戸惑いの多
 かった夏である。
 日大山形の今夏は太
 陽のような輝きに満ち
 ている。野球部の甲子
 園出場、ボクシング・
 男子テニス・女子ハン
 ドボール・水泳・ダン
 スドリル・放送・写真
 の全国大会出場と部活
 動の大きな活躍。桜華
 祭は四年ぶりに一般公
 開も行われた。久しぶ
 りに校地内に見る模擬
 店の賑わいに心が躍
 る。特別文化講演会に
 は栗山英樹氏をお招き
 した。昨年は張本智和
 氏をお招きしたことも
 あり、ある生徒から「日
 大山形ってすごい学校
 なんですわね」と興奮
 味に声をかけられた。
 いよいよ本格的な受験
 シーズンを迎える。三
 年生全員が進路希望を
 達成してほしいと切に
 願っている。